

## はじめに

こんにちは。ジェンダー教育研究所・学生リーダーです。  
私たちは、本学のジェンダー教育研究所とともに、ジェンダーの諸課題、特に多様性の尊重やジェンダー平等に寄与することを目指した活動を行っています。

今回は京都女子大学学長・竹安先生へのインタビューをさせていただきました。  
ジェンダーや自身の学生生活について考える良い機会にもなると思いますので、ぜひインタビュー記事をご覧ください！

### 京都女子大学学長・竹安先生へインタビュー！

学生リーダー：

ジェンダー教育研究所学生リーダーです。

「発信！京女Spirits」企画の第二弾として、本日は、本学の学長である竹安栄子先生にじっくりお話を伺いたと思います。本日は貴重なお時間を頂き、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。



竹安学長

### ジェンダー教育研究所設立について

学生リーダー：

まずはジェンダー教育研究所設立に至るまでの経緯を教えてください！

竹安先生：

まず執行部の中で「作りたい」って私が提案して、それを受け入れて事務局が「じゃあやろう」って言ってくれた感じかしら。

学生リーダー：

そうだったんですか！竹安先生の一声で設立が決まったんですね！

竹安先生：

そうですね。でも最初はジェンダー平等を掲げることに、教職員の方々がどう思っていたのかわからないところでは、少し探り探りみたいなところがありました。実は、今まではっきりとジェンダー平等を看板に掲げた大学はありませんでした。だから恐る恐る進めていくようなところがあったと思います。



学生リーダー：  
そうだったんですか！

竹安先生：

幸い社会的な流れも相まって、報道などでも注目されました。  
また、大学のグランドビジョン(10年間の長期目標)をベースに五年単位の中期計画を策定して、さらに毎年学長基本方針という形で一年単位の基本計画を立てることになっていますが、その基本計画の中にジェンダー教育研究所の設置を入れることが出来ました。それによって、一定の予算処置もされるのであとは事務局の皆さんが中心になって進めてくれた形でした。

学生リーダー：

詳しく教えていただきありがとうございます！

竹安先生：

研究所としての機能が果たせるスタートアップの組織としては、特段の障害もなく設立できましたね。

### 京女生の印象について

学生リーダー：

では京女生の印象について教えてください！

竹安先生：

私は様々な取材で京女生について聞かれると、必ず「うちの学生は素晴らしいです」と答えていますし、事実そう思っています。

学生リーダー：

本当ですか！



竹安先生：

実は、もう引退してセカンドライフを楽しんでいる年齢ですが、いまだに学長として仕事をしているのは、自分が直接教えた学生だけじゃなくて、卒業生を含めた京女生みんなが好きだし、この大学のために貢献できるならばと思っているからです。それ以外に本当に働く動機はありません。また大きな言い方をすれば、この大学が存続すれば日本の社会を変えることができる人材が出てきてくれるのではないかと考えています。

学生リーダー：

では京女生に対してどのように成長して欲しいと考えていらっしゃいますか？

竹安先生：

京都女子大学の教育を経験する方は、大学四年間の生活で自分の持っている潜在的な能力を引き伸ばし、その力を活かして社会に貢献してほしいと思っています。そのためにはまず皆さんがこれから歩んで行かれる未来、特に日本社会の未来について正確な知識を持っていたきたいです。そして自分自身の未来を作るために果たすべき役割を認識し、社会に出て行って様々な抵抗を乗り越えられる力を身につけていっていただけたらと思っています。

学生リーダー：

3回生の現段階で、今までになかった経験や知識というものが身についていると感じているので、卒業した後にも活かせるようより学びを深めていきたいと思います！ありがとうございました！

### 学生リーダーに期待していること

学生リーダー：

次に学生リーダーに期待していることを教えてください！

竹安先生：

まず日本はジェンダーギャップ指数118位（163か国中、2024年世界経済フォーラム）ですが、これは日本社会の構造、文化、個人の意識に至るまでジェンダー規範が浸透している結果だと捉えています。



竹安先生：

そこで女子大学がアファーマティブ・アクション（積極的格差是正措置）を掲げるのは、社会に根深くジェンダー規範が浸透している構造の中での教育では、ジェンダー規範の再生産が起きてしまうと考えているからです。それを断ち切るためには、やっぱり特別な教育を進めていく必要があります。

学生リーダー：

ジェンダー規範の再生産ですか…。固定されたジェンダー意識が根付いて行ってしまいますね。

竹安先生：

はい。そういったジェンダー規範から比較的ニュートラルな女子大学で積極的にジェンダー教育を進め、個人の意識改革に努めていく。また。ジェンダー教育研究所ではジェンダー教育の重要性やジェンダー教育の教育法を議論していく必要があると思っています。

学生リーダー：

私自身もジェンダー規範に対して正しい知識をつけるとともに、学生リーダーの1人としてジェンダー規範の払拭に携わっていけたらと思いました。

竹安先生：

そうですね。やっぱり学生の皆さんが意識的に学ぶ機会や活動をしてもらうのも、ジェンダー教育研究所の大きな役割だというふうに考えているので、学生の皆さんに入っていて、積極的に自分自身をトレーニングするとともにその活動を広めていただけたらと思います。学生リーダーにはジェンダー研究所が掲げているジェンダー教育の担い手としての役割を期待しています。



### 未来のジェンダー教育研究所の姿



学生リーダー：

では最後に5年後、10年後の研究所の姿をどのように描いていらっしゃいますか？

竹安先生：

そこまで先のことは言えませんが、実はこの春に土井たか子さんの資料を本学が引き受けたんです。どういった方が知ってます？

学生リーダー：

土井たか子さん…お名前をお聞きしたことはないです。

竹安先生：

本学の卒業生で「首相に最も近い地位の女性」と言われた人です。当時の野党第一党である社会党の党首になって、女性で初めて衆議院議長をされました。実はそういう卒業生をこの学校は輩出してるんです。

学生リーダー：

そんな方がいらっしゃったんですね！

竹安先生：

彼女が残した議員時代の資料をジェンダー教育研究所でお引き受けして2024年8月から整理を始めていますが、日本政治史研究の中では女性の国会議員はほとんど取り上げられていません。

学生リーダー：

一度もですか?!

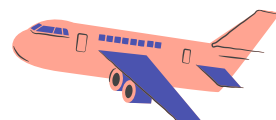
竹安先生：

そうなんです。今、アメリカの大統領選では民主党から女性候補が出て、いよいよ女性大統領が実現するかというところまで来てますよね。実はその前に出馬していたヒラリー・クリントンという女性は惜しくも当選できませんでしたが、次の女性へバトンが引き継がれることを願っていたんです。

学生リーダー：

アメリカではきちんとバトンが引き継がれているわけですね！





竹安先生：

ところが、日本では土井たか子のバトンを誰も引き継いでこなかった、それどころかその引き継いでこなかったという事実すら忘れられようとしています。

学生リーダー：

そういう点で日本はまだまだ遅れていますね。やはり女性の国会議員を取り上げていかないと…

竹安先生：

今整理を始めたばかりですが、土井たか子の資料はある程度マスコミから注目してもらってます。

学生リーダー：

そうだったんですか！

竹安先生：

私としてはジェンダー教育研究所で資料整理、研究を進め公表することで学生の皆さんにこういう先輩がいたことを知ってもらい、土井たか子のバトンを受け継いでいってくれたらと思っています。だからこそ土井たか子の研究を進めることが今ジェンダー教育研究所の未来について期待していることです。

学生リーダー：

土井たか子の研究が進み、京都女子大学からもバトンを引き継いでくれるような存在が現れたら素敵ですね。女性議員が取り上げられることで政治に関心のある女性が増え、政治におけるジェンダー格差が少しでも縮まればいいなと思いました。

インタビュー日：2024年9月3日

インタビュー場所：京都女子大学

インタビュアー：2024年度ジェンダー教育研究所「未来を創るプロジェクト」

文学部3回生（当時） 井口萌 他

取材協力：発達教育学部4回生（当時） 川北奈都